

# 令和4年度 事業報告

## 1. 内外の女子体育に関する研究及び研究大会の開催

### 1) 関連研究プロジェクト

(八木会長)

研究タイトル：『JAPEW 70周年プロジェクト』

申請者：(公社)日本女子体育連盟理事会

研究背景：2024年にJAPEWは発足70周年を迎える。特に近年は、ダンスについての新しい見方、オンラインと対面を活用してのダンス指導の工夫や事例を収集してきた。本プロジェクトではこれまでの成果を基盤にして、社会状況の変化に対応し、学校体育では、その中で学びに向かう力を高めるような、生涯スポーツにおいては活動継続に資するような考え方や方法をさらに研究し、これらの活動成果を、条件や場面に応じて参考にできるように、また広くアクセスできるような形式で発表することを目的とする。

【1年目】①情報の整理と分析 ②観点の抽出 ③研究の骨子の図式化(実施済み)

【2年目】観点ごとの研究実践

【3年目】70周年記念研究発表大会・同記念誌等(仮)として成果を公開する。

研究成果：1年目の研究から、日本ならびに世界の社会状況を反映した我国の体育・ダンス教育の課題は「スポーツ・ダンスを通じて境界を越えた創造的な対話を実現すること」であると考えられた。そこからJAPEWが今後取り組んで行く具体的な研究課題として、①学校体育ならびに生涯ダンスの場におけるICTを活用した創造的学習のモデルを構築すること、②生涯ダンスの成功モデルを提示しながら、持続可能なダンス文化のための条件を抽出すること、③体育・ダンスにおけるジェンダーの解放への具体的方策を検討することなどが挙げられた。

### 2) 加盟団体との共同研究

(八木会長、寺山常務理事、小松理事)

【継続】鹿児島県学校体育女子体育研究会(共同研究者：寺山由美)

研究テーマ：「～感じて動いて考えて～」

表現・ダンス授業の『主体的、対話的で深い学び』；ダンスの知識を問う

<概要>

新学習指導要領では「自分で考え、主体的に運動に関わる(する、見る、支える、知る)力」を学校体育で培うことが重視されている。そのためにも、体育・スポーツに関する「知識」に関する学習指導の充実が必要とされている。「ダンス系」領域においても、ダンスを通じた仲間との交流を重視したゴールフリー的な「探求型」学習を基本としながら、各発達段階に応じた「ダンス」の「知識」を意識した指導方法を工夫する必要がある。そこで本研究では、「ダンス系」領域の「表現系ダンス」「リズム系ダンス」について、「技能」に対応した「知識」を明確化し、「技能」と関連させた「知識」を活用した発達段階別の授業実践モデルを構築することを目的とし、系統性をもったダンス指導について研究を行った。開発した授業モデルに沿って、鹿児島県内の保幼・小・中・高等学校・特別支援学校・大学にて授業実践を行い、児童・生徒・学生への質問紙調査や授業分析、授業実践を行った教師へのインタビューから、「知識」を活用したダンスの授業モデルの有用性を検証することができた。

### 3) 全国女子体育研究大会

#### 第55回全国女子体育研究大会(鹿児島大会)

(寺山常務理事、小松理事)

●2022年11月18日(金)・19日(土)に開催予定であったが、新型コロナウイルス感染症のため、オンデマンド開催に変更。

オンデマンド形式による大会配信期日 2022年12月15日(木)～2023年1月31日(水)

主催 (公社)日本女子体育連盟、鹿児島県学校体育女子体育研究会

後援 スポーツ庁、鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、他

テーマ 「夢交流・Danceの風をこの地から ～生き抜く力で輝く未来を!～」

内容 分科会・全体会

参加者 全国の幼・保・小・中・高校・特別支援および大学、生涯スポーツ指導者等

人数 県外参加者105名、県内参加者236名 計341名

参加費 6,000円

#### <概要>

分科会では各校種毎の研究発表と実践が紹介された。幼稚園・保育園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、大学、社会体育の7つの分科会が公開された。全体会では、バーバラ植村氏の特別講演、研究報告、公開演技、JAPEW 賞表彰式などが公開された。

オンデマンド大会へのサイト訪問者は505名であった。対面形式で開催できないことは残念であったが、遠方の方にも参加してもらえるとという利点もあった。

## 2. 女子体育に関する講習会及び育成事業

### 1) サマーセミナー

#### JAPEW SUMMER SEMINAR 2022—令和4年度夏期講座—

□生涯スポーツ／授業・保育専門委員会

(高野牧子副会長、佐藤常務理事、多田理事、高野美和子理事、本田理事)

【公益財団法人スポーツ安全協会スポーツ普及奨励助成事業】

期 日 2022年8月27日(土)・28日(日)

後 援 スポーツ庁 東京都 (公財)日本スポーツ協会 (公財)スポーツ安全協会  
(公財)ミズノスポーツ振興財団 (公財)日本学校体育研究連合会

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

内 容 講演、講義、実技、実習 等

参加者 幼稚園・保育所・認定こども園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・短期大学・大学・  
専門学校・生涯スポーツ等の指導者及び関係者・大学生・大学院生 等

参加費 会員13,200円、一般15,400円、学生7,700円

動画視聴コース(学校体育コースのみ)：会員 6,600円、一般 7,700円、学生3,300円

※会員(正会員・特別会員・JAPEWダンスムーブメント指導員・『女子体育』年間購読者)

#### <概要>

今回のメインテーマは「今、ダンスにできること」としサブテーマとして生涯スポーツは「Well-being〜共に舞いあがろう〜」、学校体育は「繋がり関わり分かち合うダンスの力〜何をどのように学ぶのか〜」を掲げて、コロナ禍にも負けることなく活動されている全国の指導者の方々に、エールを送り生きる力の一助として頂くために様々な試みをした。感染症対策では事前の健康チェックシートの記入・提出や都度の手指消毒、アルコール除菌、検温などを徹底し受講者に安心して参加いただけるよう準備した。

参加者の内訳は、生涯スポーツコースは114名(会員70名、一般24名、学生6名、養成14名)であった。学校体育コースは、56名(対面コース：会員15名、一般2名、学生2名、対面+動画視聴コース：6名、動画視聴コース：会員21名、一般9名、学生1名)であった。

生涯スポーツコースでは、夏まゆみ氏による講演「Fun-key Dancing®!」では、モーニング娘。AKB48の振付やアイドル育成としてもご活躍の夏先生に、“モチベーション持続へと導く指導法”についてご講演頂いた。また、佐藤真治氏による講義「Exercise is Medicine!」では、学生達が主体となって地域の絆を高める散歩(夕焼け散歩)の実践報告やアメリカスポーツ医学会(ACSM)が身体活動普及の国際プロジェクトとして進める

「Exercise is Medicine!」(運動はお薬です)について、国(厚生労働省、経産省)の動向についてご紹介頂いた。牧山朋子氏による実習「メイクアップ~表情を明るくするヒント~」では、マスク生活が長く続き、簡単メイクで済ませている方も多いはず。“明るく活力ある表情”に見えるメイクアップ方法をレクチャーして頂いた。佐藤廣子氏による実技①「ダンスムーブメント〜ハートフル Song〜」、多田五月氏による実技②「ダンスムーブメント〜カッコ可愛いK-POP〜」をテーマに掲げ、実技③ではAsa Kubiak氏による「自分と向き合うボディケア」では、自分の呼吸を感じ、身体と対話しながら「スパイラル」と「ファーシャ(筋膜)」を意識して動くことで、本来の自分らしいムダのない流動的な動きを取り戻すことができる。シルク・ドゥ・ソレイユのアーティストとして活躍された先生のパフォーマンスは、まるで水の中で動いているかのようであった。また篠史美氏による実技

④「ダンスムーブメント～夜明けのJAZZ～」、飯田路佳氏による実技⑤「情熱のTANGO」などジャンルや曲調の異なる作品を指導し、対面での講習の良さを受講者と共に共鳴できる講習となった。当日終了と同時に開催に関するアンケートを実施し、次年度の開催へのヒントを得ることが出来た。

学校体育コースでは、寺山由美氏による「どうして『創作ダンス』を体育で行う必要があるのでしょうか？～ともに考えたい学習者の姿～」をテーマとした演習が行われ、体育における身体の捉え方、創作ダンスのあり方についての講義や受講者同士のディスカッションが展開された。実技①では、細川江利子氏による「学習指導要領を踏まえた表現系ダンスの授業～これだけは押さえない指導のポイント」をテーマとした実技が行われ、学校体育におけるダンスの指導内容の位置づけについての解説および表現系ダンス指導の要点についての実践的な講習が行われた。実技②では、布施典子氏による「アフリカダンスのパワーをもらって～創作活動に繋げる～」をテーマとした実技が行われ、本場のアフリカダンサー、ドラマーの方々の実演を交え、アフリカダンスの動きから創作ダンスへ繋げる指導について実践的な講習が行われた。実技③では、西園美彌氏による「魔女トレ～人体の構造と機能を足から学ぶ～」をテーマとした実習が行われ、足裏の感覚を目覚めさせるワークを通じて、体の構造を理解し、合理的、機能的な身体の使い方を体得する講習が展開された。今年度は、対面コースに加えて動画視聴コース（録画した講習を視聴できるコース）を設定し、結果的に大変充実した講習となった。

## ■ 8/27・28 プログラム

9:30～10:00		10:00～		10:20～11:40		13:00～14:10		14:25～15:35		15:50～17:00		19:00～20:00		
				【センター棟101】				【スポーツ棟1,2体】						
8 月 27 日 (土)	生涯スポーツ コース	受付	開講式	講演 『Fun-key Dancing®!』 夏 まゆみ		実技① ダンスムーブメント 『ハートフルSong』 佐藤 廣子		実技② ダンスムーブメント 『カッコ可愛いK-POP』 多田 五月		実技③ 『自分と向き合うボディケア』 Asa kubiak		復習コーナー		
	学校体育 コース	受付	開講式	演習 『どうして「創作ダンス」を体育で行う必要があるのでしょうか？～共に考えたい学習者の姿～』 寺山 由美		13:00～16:00 【スポーツ棟3体】 実技① 『学習指導要領を踏まえた表現系ダンスの授業～これだけは押さえない指導のポイント～』 細川 江利子								
8 月 28 日 (日)	生涯スポーツ コース	受付		【センター棟101】 講義 『Exercise is Medicine!』 佐藤 真治		実習 『メイクアップ ～表情を明るくするヒント～』 牧山 朋子		13:00～14:10 実技④ ダンスムーブメント 『夜明けのJAZZ』 篠 史美		14:25～15:35 実技⑤ ダンスムーブメント 『情熱のTANGO』 飯田 路佳		15:45～16:30 振り返り		閉講式
	学校体育 コース	受付		9:30～11:30 【スポーツ棟3体】 実技② 『アフリカダンスのパワーをもらって ～創作活動に繋げる～』 布施 典子		13:00～15:45 【スポーツ棟3体】 実技③ 『魔女トレ～人体の構造と機能を足から学ぶ～』 西園 美彌								閉講式

## 2) JAPEW 未来世代の研究発表会

### 第66回研究論文発表部門・卒業ダンス作品発表部門

□研究交流専門委員会(高野牧子副会長、長谷川理事、高田理事)

期 日 2023年2月11日(土・祝)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター(カルチャー棟 小ホール)

内 容 ①研究論文発表部門:卒業論文・修士論文・博士論文の口頭発表及びポスター発表

②卒業ダンス作品発表部門:卒業・修了学生によるダンス作品の発表及び招待作品上演

参加者 大学生、教育関係者、会員、一般

合計177名(招待校を除く参加者延べ人数、ダンス参観者、両部門参加者14名を含む)

参加費 発表者1,000円、参観者500円(研究要旨集・ダンスプログラム代)

#### <概要>

この研究発表会は、3月に大学を卒業、修了する未来世代の若者による、研究（口頭発表・ポスター発表）とダンスの発表会である。今年度は3年ぶりに対面にて実施し、口頭発表2題（修論2題）、ポスター発表25題、ダンス発表7作品、ダンス招待校1校の発表があり、発表者（計59名）・聴講及び参観者（35名）・指導教員18名を含め、約177名の参加人数であった。

今年度は、参加費を対面実施時に戻し、参加費1,000円、参観者の要旨集・プログラム代を500円とした。また、会場はカルチャー棟小ホールであり、口頭発表及びダンス発表を小ホール、ポスター発表を小ホールロビーにて行った。口頭発表は、ポスター発表者、ダンス作品発表者も参観し、論文発表に加え、発表者へのインタビューの時間を設けた。活発な質疑応答が行われるとともに、インタビューによって発表者の研究のきっかけや研究へ臨む姿勢等を伺うことができる良い機会となった。ポスター発表では、コロナ禍の状況を鑑み、参加者数を制限したことにより、会場内もゆとりを持った設置ができ、安全に実施できたのではないかとはいえる。ダンス発表は3年ぶりであり、3密を避ける対策を講じての実施であった。その中で、生き生きと躍動する卒業生のダンスが大変好評だった。

昨年度、一昨年度とWeb開催（オンデマンド）を行ってきたが、今年度、対面で実施することで、多くの交流がみられ、対面の良さを深く感じる時間となった。次年度も卒業生、修了生など多くの方の「交流の場」となるような開催ができるよう、準備を進めていきたい。

### 3) JAPEW ダンスムーブメントセミナー

#### 第16回 JAPEW ダンスムーブメントセミナー2022

□指導員制度専門委員会(佐藤常務理事、多田理事)

主催 (公社)日本女子体育連盟 愛知県女子体育連盟  
期日 2023年2月18日(土)・19日(日)  
会場 名古屋市体育館  
後援 スポーツ庁・(公財)日本学校体育研究連合会・愛知県・愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会  
(公財)愛知県スポーツ協会  
講師 八木ありさ、佐藤廣子、熊谷佳代、宮本乙女、伊藤敦子、飯田路佳  
参加者 207名(講師・顧問・参与含む)、他に歓迎演技発表者  
参加費 4,000円

#### <概要>

今回16回目を迎えた本セミナーは、2020年度はコロナ禍で延期、2021年度オンライン配信となり、3年ぶりの対面開催となった。(公社)日本女子体育連盟と愛知県女子体育連盟の共催により、ダンスムーブメントの普及を図ると共に、生涯スポーツ、学校体育の振興に寄与する人材育成を目指して行い、全国から207名が参加。(公社)日本女子体育連盟からは、顧問・参与をはじめ常務理事や理事など多くの方々が参加した。

東京(本部)・愛知・岐阜の講師陣による、いろいろな視点からのダンスへのアプローチがあり、ダンスの間口の広さを味わうことが出来た。また、北海道から鹿児島までの参加者は、学校体育・生涯スポーツのつながりをより強く感じる有意義なセミナーとなった。参加者からは、心尽くしの企画と運営で和やかな心温まる時間を共有し、「これからもイベントに参加したい」「バラエティに富み、楽しく動けてよかった」など、多くの満足の声があった。

詳細については、『女子体育』2023年夏号で報告予定。

#### 4)「JAPEW ダンスムーブメント指導員」養成事業 (略称 JAPEW-DMIL)

□指導員制度専門委員会(佐藤常務理事、多田理事、田中安理理事)

##### ①「JAPEW ダンスムーブメント指導員」養成講習会

〈A級-第17回、B級-第21回、C級-第24回〉

期 日 2022年8月27日(土)・28日(日)・29日(月)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

内 容 理論、実技 計21時間 (※27日・28日はサマーセミナーAコース受講に代える)

講 師 田中安理、飯田路佳、佐藤廣子、小川佳子(帝京大学)

受講者 今年度資格取得希望者 A級4名、B級5名、C級5名 計14名(2021年度からの継続者9名含む)

受講料 会員・一般・学生 16,500円(SS受講料含む)

##### ②「JAPEW ダンスムーブメント指導員」検定講習会

期 日 2022年10月8日(土)・9日(日)・10日(月・祝)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

内 容 理論、実技、指導実習 計19時間 ※検定試験

講 師 八木ありさ、高野牧子、飯田路佳、高橋眞琴、林眞幾子、細川江利子、佐藤廣子、寺山由美

受講者 A級4名、B級5名、C級5名

合格者 A級4名、B級5名、C級5名

検定委員 高野牧子、飯田路佳、片岡康子、高橋眞琴、林眞幾子、佐藤廣子、寺山由美

〈概 要〉

本年は3年ぶりの対面開催となり優れた資質の指導員を輩出することができた。詳細は『女子体育』2023冬号で報告した。公認指導員現数は129名(2023.01.07現在)

##### ③「JAPEW ダンスムーブメント指導員」クリニック

期 日 2022年8月29日(月)

会 場 国立オリンピック記念青少年総合センター

主 管 (公社)日本女子体育連盟 指導員制度専門委員会

内 容 実技研修

講 師 林眞幾子、寺山由美、高野牧子、片岡康子

受講者 S・A・B・C級 有資格者 38名

受講料 会員 5,500円

〈概 要〉

クリニック講習会は指導者としてのスキルアップへの熱い思いと、対面で動けることの喜びが感じられたクリニック・養成講習会は3年ぶりの対面開催となった。詳細は『女子体育』2022特集号で報告した。

### 3. 機関誌その他の学術刊行物の発行

#### 1)『女子体育』編集発行

□『女子体育』編集専門委員会(宮本常務理事、田巻理事)

① 刊行 通常号は季刊(年間4回)とした。他に、AJDF神戸特集号を発行、合計5回とした。

春号:4月8日発行 夏号:7月8日発行 秋号:10月8日発行 冬号:1月8日発行

AJDF神戸特集号:11月10日発行

② 体裁 B5判。通常号64頁、AJDF-Kobe特集号80頁とした。

③ 購読料 年間購読料5,800円、新卒4,000円、学生3,800円、JAPEWダンスムーブメント指導員4,000円  
通常号、特集号共に、1冊売りは1,320円(税込)

- ④ **刊行方針** ダンス指導について先進的に世に提案していく。これまで同様、しっかりと理論に裏打ちされた実践的な内容を掲載し、現場の保育者、教師、生涯スポーツの指導者、体育やダンスを学修する学生の、実践や研究に資する雑誌を目指す。
- ⑤ **年間テーマ** 「今、ダンスにできること」  
2022年度は、2021年度年間テーマを引き継ぎ、「今、ダンスにできること」を探究する1年とした。
- ⑥ **各号テーマ**
- 春号 遊ぶと学ぶ
  - 夏号 体と向き合う
  - 秋号 共に創る
  - 冬号 ライフステージを彩る
  - 特集号 第34回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)特集号

<概要>

機関誌『女子体育』としてのあり方、JAPEW事業全体における会計的な問題、他誌との差別化を図り購読者を増やすことについて検討し、リニューアルを図って、2年間を終えた。他の連盟の事業同様、コロナ禍以前のような販路拡大の活動も難しく、購読者を増やすことはできなかった。

他誌との違いを出すこと、『女子体育』という名称により、女子や女子教員を対象とした提案であるという誤解を招くため、表紙デザインの中に、「Dance Education for All」のロゴを配置して、ダンス教育に関する雑誌であることを強調してきたが、まだ社会への認知度は低いと思われる。

表紙には、掲載記事のタイトルの一部を掲載して、内容のアピールをしたことを含め、好評であった2021年度のデザインを引き続き活用、色味を変えることで2022年度版とした。

体育・スポーツに関する連載「やさしく読み解く体育・スポーツの今」については、話題も多岐にわたり学びを得ることができたが、さらに内容は開拓できそうであるという手応えを得た。

生涯スポーツのダンス指導者の読者が多いことを鑑みて、JAPEWダンスムーブメント指導員向けの、より実践的な連載「課題曲レッスン」は2年間継続し、動画QRの掲載が好評であった。

クラウドを使った編集作業の効率化や、ミスを少なくするような仕組みを随時検討してきた。しかし、編集段階で、写真の掲載ミスが生じて、お詫び状を送る事態も起きた。編集に関わるメンバーがそれぞれの本務と兼務しながら進める中でも、できる限り複数によるチェック体制を整え、時間的な余裕をもって取り組む必要がある。

特別会員で会員費を払っている仲間に、さらに連盟への帰属意識を高めていただくために全員配布として、2年間を終えた。現在掲載しているよい実践や、本連盟の主催イベントについて関心を持っていただき、各県の取り組みをもっと積極的に掲載していくことで、本誌の機関誌としての意義を高めていくこととした。毎号2件ずつ掲載する「各県便り」は、コロナ禍の中でも対面の活動を復活しつつある事業などが披露され、お互いの刺激につながったと好評であった。次年度以降は「加盟団体便り」とタイトルを変えてさらにその意義を高めていきたい。また、2022年度は久しぶりに、鹿児島県で全国大会が開催された。時間をかけて取り組んだ授業実践を本誌に掲載していくこととした。

経費に関するその他の工夫として、会員からの有料広告掲載ページ(1件5,000円で、毎号3件の収入を見込む)を導入したが、なかなか掲載申し込みが増えないことが問題となっている。

## 2) 『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』発行

□ 『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』編集委員会(原田理事、福本委員)

- ・前年度に検討され認められた投稿規定の内容を反映した改定版・投稿規定を令和4年4月1日より施行した。これに基づき、投稿資格には特別会員および加盟団体会員に加えて、共著者に非会員を認めることとなった。
- ・『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第39巻を発行した。論文の投稿は全4件あり、論文1件につき2名から3名の審査者(全9名)に依頼した。最終的に4件を掲載した。

## 4. 関係諸団体との連携及び国際的な研究交流の推進

### 1) 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)

#### 第34回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) 34th All Japan Dance Festival-Kobe

□AJDF-KOBE専門委員会(寺山常務理事・熊谷理事・渡辺理事)

期 日	2022年8月10日(水)・11日(木)・12日(金)・13日(土)		
会 場	神戸市/神戸文化ホール・神戸市立中央体育館		
主 催	(公社)日本女子体育連盟、神戸市、神戸市教育委員会		
主 管	第34回全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)実行委員会		
後 援	スポーツ庁、(公財)日本スポーツ協会、NHK(日本放送協会)、 (公財)全国高等学校体育連盟、全国高等学校長協会、兵庫県、兵庫県教育委員会、 (公財)神戸市スポーツ協会、(公財)ミズノスポーツ振興財団		
協 賛	(株)日本旅行神戸支店、ミズノ株式会社、(株)フォトスタジオ八木		
内 容	①開会式(限定オンライン配信) ②創作コンクール部門 (高校/予選(2日間開催)・決選、大学/予選・決選) *予選、決選 出演関係者のみ有料鑑賞(全席指定)、オンライン同時配信 ③参加発表部門 *出演関係者のみ有料鑑賞(全席指定)、オンライン同時配信 ④表彰式・特別プログラム(創作コンクール部門高校・大学受賞作品) *特別プログラムは大ホールにて有観客1回公演 有料 全席指定、オンライン同時配信		
表 彰	文部科学大臣賞、NHK賞、日本女子体育連盟会長賞、神戸市長賞(以上、高大各1)、 特別賞(高大各4)、奨励賞(高大各1)、審査員賞(高3、大1)、準入賞(高4)		
参加校数	①創作コンクール部門	高校/76 ・ 大学/26	計102校
	②参加発表部門	高校/24 ・ 大学/14	計38校
参加人数	①創作コンクール部門	高校/1,671 ・ 大学/434	計2,105名
	②参加発表部門	高校/485 ・ 大学/221	計706名
参加都道府県数	21		
TV放映	NHK Eテレ 9月3日(土)15:00~16:00 【再放送】9月16日(金)25:00~26:00		
その他	・ 第20回大会記念DVD(20年間のテレビ放映映像を含む総集編)や過去大会の記録DVDを提供 ・ 第34回大会の記録DVD(Blu-ray)と『女子体育』報告特集号の申し込み ・ 大会の詳細を『女子体育』報告特集号に報告		

#### <概 要>

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じ、今大会も開催した。参加者数は延べ2,811名、参加校数は140校、オンライン配信の視聴者は、延べ3,770名であった。大会役員・委員(総務・上演・アナウンス・審査・式典・受付・会場・楽屋)89名の他、舞台スタッフ(舞台監督・照明・音響)、各業者(日本旅行・写真・印刷・HP)等、多くの人々の力が結集し、オミクロン株BA.5が猛威を振るい、感染者数が急増する中での大会開催となったが、クラスターを発生させることなく、無事に大会を終えることが出来た。

第34回大会は、with コロナで開催した33回大会の基本的な方針を踏襲しつつ、大会開催時の感染状況に合わせた感染症予防対策を講じた。33回大会と同様に、小道具の廃止。上演の際、作品間の時間に余裕を持たせる。出演者の楽屋としての場所を大会ホールだけでなく、ホール付近の施設を貸切にして利用。しかし、ホール内、舞台上の動線は、多少の変更点はあるものの、コロナ禍前の例年通りのものとした。

大会開催後には、財政基盤をより強固にするため、ガバメントクラウドファンディング(ふるさと納税)を実施。目標金額である300万には届かなかったが、2,043,000円を集めることに成功した。次年度は、新型コロナウイルス感染症法上の位置づけ移行に伴い、感染対策は講じながらも、コロナ禍前の方法に徐々に大会の形態を戻して運営していく予定である。

## 2) 国際的な研究交流事業

□国際交流専門委員会(高野牧子副会長、田中葵理事)

### ① 国外の体育・スポーツ・ダンス推進団体との連携、情報交流

○国際女子体育連盟(IAPESGW)との連携

○JAPEW HP「国際情報」ページに、IAPESGW ニュースレターを配信している。またCID(International Dance Council 国際ダンス協議会)、IWG(International Working Group on Women and Sports 女性とスポーツの国際ワーキンググループ)を中心とした、海外における国際的な女性と体育・スポーツ・ダンス関連の情報を配信した。

### ② 国際学会参加促進に向けた第3回研修会の開催

期 日 2022年8月20日(土)14:00-17:00

会 場 オンライン(Zoom) 委員会場：お茶の水女子大学 / びわこ成蹊スポーツ大学

主 催 (公社)日本女子体育連盟

講 師 寺村アームストロング依子

内 容 国際学会発表について理解を深め、英語でのアブストラクト作成方法を学ぶ

<概 要>

IAPESGW(国際女子体育連盟)国際会議を始めとした国際学会での発表に向け、会員の関心を高めるとともに、近年様々な場面で求められる英語でのプレゼンテーションやアブストラクト作成について基本的なスキルを習得する機会として、一昨年度より開催している研修会である。今年度は昨年度の講師である西条正樹氏にご紹介いただいた寺村アームストロング依子氏を講師として招聘した。今年度もコロナウイルス感染予防対策と全国各地からの参加の可能性を考え、オンラインのみでの開催とし、当日の参加者は13名(会員2名、学生10名、一般1名)であった。内容は、対談形式による寺村講師の経歴紹介、大西委員による国際学会での発表経験談、寺村講師によるアブストラクトの構成についてのレクチャーとグループワークを実施した。寺村講師のレクチャーでは、アブストラクトの構成についてペア/グループワークを交えた個別的で丁寧な指導と同時に、技術的な点だけではなく国際学会発表の際の海外と日本との考え方の違いなどに触れられたことで国際理解が深まったと考える。大西委員による国際学会発表経験談も具体的であったため、事後アンケートからも国際学会発表のイメージが持てたとの声もあった。

この国際交流のWS/研修は、「①国際的な今日のダンスを伝える」「②ダンスを通じた異文化交流を図る」「③国際的にダンス/体育を考える」ことを主旨として、これまでのさまざまなワークショップや研修を実施してきた。この度3回目を迎えた「国際学会発表に向けた研修会」は、元々は③を主旨に、IAPESGW 国際会議が東京で開催されることをきっかけとして始まり、コロナ禍とも重なったことでzoomでもできる研修として実施してきた。内容的には大変有意義な内容であると自負しており、参加者からの満足度も高く今後も継続して欲しいという声もある。しかし、参加者が少ないことは例年の大きな課題として挙げられる。今年度は特に、前週にAJDF、次週にSSがあり、時期的にも難しかったのかもしれない。また、国際学会発表を近くに控えていないと、参加する動機としては弱いようにも感じられる。これまでの参加者のアンケート結果では、特に学生層からは実技ワークショップの希望も多いため、次年度はコロナの様子も鑑みながら、ワークショップを検討したい。また、長期的には、海外の舞踊研究者の研究発表や日本の舞踊研究者とのシンポジウムなども含め、検討していきたい。

### ③ (公社)日本女子体育連盟の活動情報の国外への発信

○ホームページのイングリッシュガイドの情報を更新した。

○連盟の活動をIAPESGW News Letterへ投稿した。

### ④ 日本国内にある異文化グループや国際交流グループとの連携事業についての検討

○学校や地域において、体育・スポーツ・ダンスを通じた異文化交流が推進できる方法を提案できるよう、情報収集を行った。

## 5. 研究の奨励及び研究業績の表彰

### 1) JAPEW 賞顕彰

□JAPEW 賞選考委員会(飯田副会長)

JAPEW 賞は社団法人(当時)日本女子体育連盟創立50周年を記念して、平成16年度に「指導者賞」と「研究奨励賞」の2賞が制定されたが、24年度に新たに「功労賞」が制定され、3賞となった。さらに連盟創立60周年を期に新たに平成26年度に「松本千代栄賞」が制定された。本年度は功労賞および指導者賞について候補者の推薦があり、

2022(令和4)年8月30日までに書面にて各賞の選考委員会を開催し、慎重に審議した結果、以下の通り決定した。受賞者へは、事前に表彰状と副賞を授与し(郵送)、第55回全国女子体育研究大会(鹿児島大会)(当初令和4年11月18日・19日)では、Web配信として、(令和4年12月15日～令和5年1月31日)において受賞者の写真とコメントを掲載した表彰式映像をオンラインで配信し顕彰をおこなった。なお、受賞者氏名は機関誌『女子体育』誌上およびHP上で公表した。

#### ①第9回松本千代栄賞

受賞者 該当者なし

選考委員会(委員長)八木ありさ

(委員)阿江通良、片岡康子、村田芳子、高橋和子、高野牧子、細川江利子

#### ②第11回 JAPEW功労賞

受賞者 岡本悦子氏(岡山県)、笹本重子氏(東京都)、白木悦子氏(宮城県)、矢野道代氏(山口県)

選考委員会(委員長)八木ありさ

(委員)片岡康子、高橋眞琴、村田芳子、高橋和子、高野牧子、小松恵理子

#### ③第19回 JAPEW指導者賞

受賞者 青山敦子氏(岡山県)、池田玲子氏(鳥取県)、平内千景氏(兵庫県)

選考委員会(委員長)八木ありさ

(委員)山西哲郎、林眞幾子、笹本重子、飯田路佳、佐藤廣子、村島恵美子

#### ④第19回 JAPEW研究奨励賞

受賞者 該当者なし

選考委員会(委員長)八木ありさ

(委員)阿江通良、高橋和子、寺山由美、宮本乙女、高野美和子、原田純子

## 6. 広報・普及活動

### 1) ITによる広報・普及活動

□広報・普及委員会(飯田副会長・田中安理理事)

#### ①ホームページの内容充実及び開示情報の更新

- 各事業と関連し、情報発信の敏速性とHPの充実をはかった。
- 事業報告、事業計画、財務諸表(決算書・予算書等)の情報を公開した。
- JAPEW推奨 ダンス授業・部活動練習ガイドラインの情報を公開した。
- 全国大会に関連した映像を公開した。
- JAPEW HPのリニューアルサイト(<https://www.japew.net/> 8/8公開オープン)を設置した。HPの移行に際し、2か月間HPを運用できない時期が発生した。

#### ②JAPEWに関連する公式SNSの管理

- JAPEWの活動内容の情報ツールとしてSNS(Facebook等)に関する管理を行なった。

#### ③各加盟団体とのIT化の推進

- 事務手続き効率化のため、各加盟団体間でIT化を一層推進した。
- 愛知県女子体育連盟ホームページリンクの共有を行なった。

#### ④『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』の電子化

- 『(公社)日本女子体育連盟 学術研究』第38巻を電子ジャーナルとしてJ-STAGEに公開(5/19)した。

### 2) その他の活動

#### ①『女子体育』購読促進活動・会員増員のための活動

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、活動することができなかった。

#### ②JAPEW関連事業に関する動画の制作

- 全国大会で使用する映像(JAPEW賞受賞者)の制作と公開を行なった。